

作成日：2025/02/28  
改訂日：YYYY/YY/YY

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称、品番 : アブロンセメント硬化剤 (BPO-DMP-K)  
供給者の会社名称 : パナソニック ハウジングソリューションズ株式会社  
住所 : 大阪府門真市大字門真 1048 番地  
電話番号 : 06-6908-6563 (水廻りシステム事業部)

項目 2 以降については別添参照

## 安全データシート (SDS)

作成日 : 2024/03/05

### 1. 化学品及び会社情報

#### G H S の製品特定

製品説明

想定される用途

当該用途における使用上の注意

供給者の詳細

アブロンセメント硬化剤 (BPO-DMP-K)

ベンゾイルパーオキサイドとフタル酸ジメチルを主成分とする混合物。

硬化剤

所定の用途以外には使用しないこと。

ルーサイト・ジャパン株式会社

〒311-3501

茨城県行方市芹沢 920-60

Tel: 0299-36-2131

Fax: 0299-36-2154

緊急連絡電話番号

090-4917-2723

### 2. 危険有害性の要約

#### 危険有害性分類

引火性液体 : 区分 3

有機過酸化物: タイプD

急性毒性 (吸入 : 蒸気) : 区分 4

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分 2

皮膚感作性 : 区分 1

発がん性: 2

生殖毒性: 1B

特定標的臓器毒性 (単回暴露) : 区分 2 (中枢神経系、呼吸器系、肝臓、腎臓)、区分 3 (麻酔作用)

特定標的臓器毒性 (反復暴露) : 区分 2 (神経系、聴覚器、呼吸器)

水生毒性 (急性) : 区分 2

水生毒性 (慢性) : 区分 3

#### 表示要素 シンボル



#### 注意喚起語 危険有害性情報

#### 危険

H226: 引火性の液体および蒸気。

H242: 熱すると火災のおそれ。

H332: 吸入すると有害。

H319: 強い眼刺激性。

H317: アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。

H336: 眼鏡およびめまいを起こすおそれ。

H351: 発がんのおそれの疑い。

H360: 生殖能または胎児への悪影響のおそれ。

H371: 臓器の障害のおそれ: 中枢神経系、呼吸器系、肝臓、腎臓。

H373: 長期にわたる、または反復ばく露による臓器の障害のおそれ: 神経系、聴覚器、呼吸器。

H401: 水生生物に毒性。

H412: 長期継続的影響により水生生物に有害。

## 注意書き

P210: 熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。

P233: 容器を密閉しておくこと。

P260: 粉じん、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

P264: 取扱後はよく洗うこと。

P270: この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

P271: 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

P272: 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

P273: 環境中への放出を避けること。

P280: 保護手袋/保護服/保護眼鏡/保護面を着用すること。

P284: 換気が十分でない場合には、呼吸用保護具を着用すること。

P301 + P310: 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。

P302 + P352: 皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。

P303 + P361 + P353:

皮膚（または髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。

皮膚を水またはシャワーで洗うこと。

P304 + P340:

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

P305 + P351 + P338:

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していく容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P308 + P311、P308 + P313:

暴露又は暴露の懸念がある場合：医師の連絡、診察又は手当てを受けること。

P312、P314: 気分が悪い時は医師に連絡、診察又は手当を受けること。

P333 + P313: 皮膚刺激または発疹が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。

P337 + P313: 眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。

P342 + P311: 呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。

P362 + P364: 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。

P370 + P378: 火災の場合：消火するために水スプレー、泡消火器、粉末消火器、二酸化炭素消火器を使用すること。

P403 + P233: 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

P403 + P235: 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

P410: 日光から遮断すること。

P405: 施錠して保管すること。

P420: 隔離して保管すること。

P501: 内容物・容器等を廃棄する場合は産業廃棄物として、国、都道府県、市町村等の法規・条例にしたがって廃棄すること。焼却する場合は、有機廃棄物を焼却処理できる、適切な設備を使用すること。

## 他の危険有害性

なし

### 3. 組成/成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

化学名及び一般名	%W/W	CAS 番号
ベンゾイルパーオキサイド	5.0	94-36-0
フタル酸ジメチル	70	131-11-3
アクリル酸エチル	0.2	140-88-5
キシレン	3.0	1330-20-7
エチルベンゼン	4.5	100-41-4

### 4. 応急措置

#### 応急措置の説明

吸入

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
呼吸が止まっている場合は、衣類をゆるめ呼吸気道を確保した上で胸骨圧迫を行う。  
体を毛布等でおおい、保温して安静を保つ。

皮膚接触

皮膚に付着した場合（もしくは髪）：汚染された衣類・靴等を速やかに脱ぎ捨てる。  
触れた部分を水又は微温湯を流しながら十分な時間をかけて洗浄する。

眼との接触

皮膚刺激または発疹が生じた場合：医師の手当てを受ける。  
眼に入った場合：清浄な水で最低15分間注意深く洗浄した後、直ちに医師の手当を受ける。  
洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球・まぶたのすみすみまで水がよく行きわたるように洗眼する。  
次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
直ちに医師の治療を受ける。

摂取

飲み込んだ場合：無理に吐かせない。吐き出させたりするとかえって危険を増す。  
直ちに医療処置を受ける。  
水でよく口の中を洗浄する。被災者に意識のない場合は、口から何も与えない。

#### 急性および遅延性の最も重要な症状と影響

めまい、窒息。

皮膚刺激性：呼吸器官に刺激を起こすおそれ。アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。

吐き気、腹痛。

#### 応急処置および必要とされる特別な処置の指示

症状に応じた治療を行う。

### 5. 火災時の措置

適切な消火剤

火災の場合には、消火に水スプレー、泡消火器、粉末消火器、二酸化炭素消火器を使用する。  
火災の場合、容器に水を噴霧して冷却する。

不適切な消火剤

棒状注水

危険有害性の要約

引火性の液体および蒸気。

特有の消火方法

火災発生場所の周囲には関係者以外の立ち入りを禁止する。

消火作業者用の特別な保護具

大規模火災の際には、泡消火剤等を用いて空気を遮断することが有効である。

と予防措置

## 6. 漏出時の措置

人体に対する予防措置、保護具  
および緊急時措置

着火源をとり除く。保護手袋および保護眼鏡/保護面を着用する。  
蒸気の吸い込みを避ける。

次の項を参照: 8

環境に対する予防措置

環境への放出を避けること。水路へ流出したり、うっかり排出した場合、関係機関に連絡する。

封じ込めおよび浄化方法と機材

周辺の住民に漏洩の生じたことを通報する等の適切な措置を行う。  
漏出物を回収する。おがくず又は可燃性の物質には吸収させない。廃棄またはリサイクル容器に移す。  
火花を発生させない工具を使用すること。

## 7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い

作業場所では飲食、喫煙を行なってはならない。取扱後はよく洗う。蒸気の吸い込みを避ける。  
屋外または換気の良い場所でのみ使用する。  
蒸気は空気より重い。くぼみと閉鎖空間に気を付ける。  
容器および受器を接地する。防爆用の電気器具を使用する。火花を発生させない工具を使用する。  
静電気放電に対する予防措置を講ずる。強い衝撃や摩擦を与えない。

工程の危険有害性

異物が混じらないように注意して使用する。  
皮膚に付いたり眼に入ったりすると、炎症を起こす恐れがあるので、ゴム手袋や保護メガネを着けて取り行う。

安全な保管条件

本品を密閉容器で取り扱う場合は、温度監視装置や安全弁、破裂板等のガス抜き装置を取り付ける。  
さらに機械装置は運転停止後、本品が装置、配管中に残留しないように抜き取る。

保管温度 (°C)

容器を密封して保管する。換気の良い場所で保管する。低温に保つ。施錠して保管する。

混触危険物質

熱、火花、裸火、および高温のものから離して保管する - 禁煙。日光を遮断する。  
容器は密閉し、冷暗所 (10°C以下が望ましい) に保管する。  
過酸化物類またはアゾ化合物類、強酸類、アルカリ類及び酸化剤類のような重合触媒類。  
遷移金属の酸化物および塩類。有機窒素含有化合物。シクロヘキサン/シクロヘキサノール互変異性体。  
小分け等の場合は鉄、銅合金、鉛、ゴム等の容器は避け、ガラス、ステンレス (SUS27 又は 32)、ポリエチレン容器を使う。  
本品と接触する機器の材質はステンレス、グラスライニング、硝子、ポリエチレン等を使用し、パッキングにはテフロン等の耐薬品性の物を使用する。  
本品の分解を促進する薬品、例えばナフテン酸コバルト、アミン化合物、バナジウム化合物等を使用する場合は、本品と直接混合することを避け、各々を別々に樹脂に希釈した後混合するか、いずれか一方を先ず樹脂で薄めた後他方を加えること。  
一般的の薬品と混合する場合も、予め少量で試験し、危険のないことを確かめた上で混合すること。

## 8. 暴露防止及び保護措置

### 管理指標

物質	CAS 番号	LTEL ppm (8 時間 TWA)	LTEL mg/m <sup>3</sup> (8 時間 TWA)	STEL ppm	STEL mg/m <sup>3</sup>	参照
ベンゾイルパーオキサイド	94-36-0		5			ACGIH
フタル酸ジメチル	131-11-3		5			ACGIH
アクリル酸エチル	140-88-5	5		15		ACGIH
キシレン	1330-20-7	50		50		ACGIH
エチルベンゼン	100-41-4	20				ACGIH

## 適切な工学的管理

作業場所では飲食、喫煙を行なってはならない。

職業暴露限度を超過しないように（適切な局所排気を含む）適切な排気をする。

より高度なレベルの保護具が必要かどうか、作業工程と潜在的暴露の程度を考慮する。

## 個人用保護具（PPE）などの個人保護措置

### 眼/顔面の保護

保護眼鏡/保護面を着用する。安全メガネあるいはゴーグルもしくは顔面プロテクター。



### 皮膚の保護

不浸透性（耐薬品／耐油／耐溶剤）保護手袋を着用する。

保護手袋の適性を手袋メーカーに確認すること。

汚れたり、継続作業が破過時間を超える場合には、保護手袋を交換すること。

手袋素材の破過時間：手袋メーカーの情報を参照。

### 呼吸器の保護

呼吸用保護具を着用する。職業暴露限度を超える濃度に暴露されるようなら、適切な呼吸用保護器具を着用する。



## 9. 物理的および化学的性質

形態	液体
色	有色
におい	刺激性で強い特異臭
臭いの閾値 (ppm)	資料なし
pH 値	資料なし
融点 (°C)	資料なし
沸点 (°C)	資料なし
引火点 (°C)	資料なし
相対蒸発速度 (エーテル=1)	資料なし
燃焼性 (固体、ガス)	該当なし
爆発限界下限値 (%v/v)	資料なし
爆発限界上限値 (%v/v)	資料なし
爆発限界値	資料なし
蒸気圧 (Pascal)	資料なし
蒸気密度 (Air=1)	資料なし
溶解度 (水)	難溶性
溶解度 (その他)	資料なし
分配係数 (n-オクタノール/水)	資料なし
自己発火温度 (°C)	資料なし
分解温度 (°C)	資料なし
粘度 (mPa.s)	資料なし
爆発性	資料なし
酸化性	該当なし
密度 (g/mL) (20°C)	1.1
粒子特性 (固体)	該当なし
最低発火エネルギー (mJ)	資料なし
屈折率	資料なし

## 10. 安定性および反応性

化学的安定性	分解する性質を有する。アミン類、強アルカリ、強酸、遷移金属化合物、その他還元性物質等との混入・接触又は高温では急速に分解する恐れあり。
危険有害反応可能性	長期貯蔵や触媒の存在により重合が起こりやすい。
避けるべき条件	熱と直射日光。異物。
接触を避けるべき物質	過酸化物類またはアゾ化合物類、強酸類、アルカリ類及び酸化剤類のような重合触媒類。
危険有害性分解生成物	遷移金属の酸化物および塩類。有機窒素含有化合物。シクロヘキサン/シクロヘキサノール互変異性体。自己発火温度までは分解しない。

## 11. 有害性情報

以下の情報はベンゾイルパーオキサイド、フタル酸ジメチル、キシレン、エチルベンゼンに基づく。

### ベンゾイルパーオキサイド

刺激性	眼、皮膚、気道を刺激する。
感作性	反復又は長期間の接触により皮膚が感作されることがある。
急性毒性	LD50-5000mg/kg (ラット、78%Wet 品、経口)
その他	変異原性なし

### フタル酸ジメチル

刺激性	接触すると眼を刺激する。蒸気やミストは眼、鼻、のどを刺激。
感作性	データなし。
急性毒性	経口接触すると悪心、嘔吐等を起こす。
	LD50-6900mg/kg (ラット、経口)
	LD50-7200mg/kg (マウス、経口)
その他	反復又は長期間の曝露により生殖機能を損なうことがある。 人で先天異常を引き起こすことがある。 動物に対して催奇形性を示す。

### キシレン

刺激性	接触すると眼、皮膚を刺激する。蒸気やミストは眼、鼻、のどを刺激。
感作性	データなし。
急性毒性	経口接触すると悪心、嘔吐等を起こす。
	LD50-3500-8800mg/kg (ラット、経口)
	LD50-1700 mg/kg (ウサギ、経皮)
	LC50-6350ppm (ラット、吸入)
生殖毒性	区分 1B

### エチルベンゼン

刺激性	接触すると眼、皮膚を刺激する。蒸気やミストは眼、鼻、のどを刺激。
感作性	データなし。
急性毒性	経口接触すると悪心、嘔吐等を起こす。
	LD50-3500mg/kg (ラット、経口)
	LD50-5000 mg/kg (ウサギ、経皮)
	LC50-4000ppm (ラット、吸入)
発がん性	区分 2
生殖毒性	区分 1B

## 12. 環境影響情報

分解性、蓄積性、魚毒性	データなし
-------------	-------

## 13. 廃棄上の注意

環境への放出を避ける。  
都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。

## 14. 輸送上の注意

UN 番号	3115
適切な船積み名	有機過酸化物タイプ D、液体、温度管理が必要なもの
等級 (Class)	5. 2
容器等級	非該当
使用者への特別の注意事項	丁寧に取り扱い、転倒転落その他の衝撃を与えないこと。 容器の上部を上にし、横置、逆置は絶対にしないこと。 積み降ろしの際は付近に火気のないことを確かめ、喫煙は厳禁とすること。 日光の直射を受けないよう遮蔽すること。 指定の輸送温度を厳守すること。
大量輸送 (MARPOL 73/78 付属書 II および IBC コードによる)	非該当
環境有害性	該当
海洋汚染物質	該当

## 15. 適用法令

労働安全衛生法	第2種有機溶剤等 (キシレン) 作業環境評価基準 (エチルベンゼン) (キシレン) 健康障害防止指針公表物質 (エチルベンゼン) 名称等を表示、又は通知すべき危険物及び有害物 (ベンゾイルパーオキサイド) (フタル酸ジメチル) (アクリル酸エチル) (キシレン) (エチルベンゼン)
消防法	危険物第4類第二石油類
化学物質管理促進法	第1種指定化学物質 (エチルベンゼン) (キシレン)

## 16. その他の情報

整理番号 : 1

### 注釈

参照 : 下記のすべてが、この安全データシートに含まれているとは限りません

WEL : 職場暴露限界 (UK HSE EH40)

TEL : 長時間暴露限界

STEL : 短時間暴露限界

TWA : 時間加重平均値

STOT : 特定標的臓器毒性

IOELV : 職業暴露限度指針値 (Indicative Occupational Exposure Limit Value)

JSOH : 日本産業衛生学会

A2 : 人への発がん性が疑わしい物質 : 人に対するデータは信頼性のレベルでは適切であるが、人への発がん性が確認された物質として分類するには不十分である、あるいは労働者への暴露を考えたときに暴露量、被曝経路、発生部位、組職学的形態、メカニズムが適切と思われる条件で、実験動物に発がん性を示す物質。A2は、主に人間に関する発がん性の証拠は限られているものの、人に関連性のある実験動物では発がん性の証拠が十分であるというカテゴリーである。

### 医療用途 :

注意 : 人体内への埋め込みを含め医療用途に使用しないでください。弊社は医療用途への使用に関する臨床試験を行なっておりません。また、医療用途への使用を推奨するような資料は持っております。生体内への埋め込み若しくは生体内的体液、組織との接触を想定し、設計若しくは製造されているものではありません。弊社はこれらの用途に関する監督官庁の許可の取得もしておりませんしする計画もありません。

市場及び使用に特有の法規の確認、また、これらの法規に適合することの確認は、最終製品の製造者の責任です。

記載の情報もしくは他の方法で提供された情報は最善の知見に基づき、誠意を持って提供しております。使用者は、これを参考として自らの責任において個々の取扱い等の実態に応じ、適切なる措置をお取り願います。弊社はいかなる用途に対しても製品の適合性に関して保証するものではありません。法による場合を除き、暗黙の保証や条件（法的なあるいはそうでない）はありません。弊社は、この情報に起因する損失または損害の責任を負うものではありません（欠陥製品が原因で死亡もしくは負傷し、そのことが証明された場合を除く）。特許、著作権および意匠のもと自由な使用権があるということではありません。